

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301609		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームほおずき		
所在地	〒031-0023 八戸市是川1-11-1		
自己評価作成日	平成26年8月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームの隣りに公園があり天気の良い日には、毎日散歩に出かけゲートボールをしている方や、かけっこ等をしている幼児達と触れ合う事ができ、又草花を楽しむ事ができる等、人や自然との関わりが得られる恵まれた環境である。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームの理念を全職員が理解し、楽しく穏やかに過ごすことができるように意識して実践している。行動を制限することなく、自由な暮らしを提供するため、日常的な外出も職員間で協力して取り組んでいる。グループホーム内外の環境美化への意識も高く、清潔さが常に保たれている様子が伺える。また、日頃から地域との交流や連携を図るよう努め、ボランティアの受け入れも積極的に行い、地域密着型サービスとしての理解ができていますグループホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ひとりひとりが、地域密着型サービスの意義を理解し、事業所の理念は日々の意識を保つために、玄関正面に掲示され実践に努めている。	「真心」を中心に、グループホーム職員で作成した理念は毎日の朝会で唱和し、ミーティングや日々のサービス提供場面において、随時確認し、実践できるよう意識付けがされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時の経過と共に近隣とは、挨拶等なじみの関係ができ、地域の祭りや草とり、幼児園、保育園の行事に参加する事で交流を図っている。	町内会に加入し、町内の行事には積極的に参加している。また、散歩時にも互いに声を掛け合い、地域の一員として日常的に交流ができるよう努めている。保育園の訪問や学生の実習等の受け入れにも積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎回、民生委員会の集会に参加し認知症の理解や支援等について発信している、更に地域に根づく様に努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回町内の役員、御家族様、利用者様を交え普段の状況、行事等の内容を報告、それについての質疑応答、意見助言を拝聴し、他の職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。	グループホーム内で行われた行事や利用者の日常の様子、外部評価の結果等を報告すると共に、参加者からそれらに対する意見をいただき、サービス向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、介護保険課の方には、年に2回は参加していただいている。よって、事業所の実情は理解されており普段から相談、連絡もさせて頂いている。	日曜日に開催する運営推進会議には、市の職員も参加し、グループホーム内の実情を伝えることができている。また、日頃より、電話やメールで相談や助言を貰い、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、しておらずオープンである。見守りや、所在確認を常に意識している、身体拘束を行っていない。	拘束について正しく理解できるよう、随時、職員間で話し合っている。また、玄関は普段施錠しておらず、利用者の動向を常に注視し、利用者の希望や主体性を尊重し、その都度対応している。手薄な時は出入りが小鳥の鳴き声でわかるように、玄関に工夫がされてある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修は、定期的に行っており職員の報告書提出にて各々の意識を継続している。また、普段の業務内で職員がお互いに防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には経営者以外は参加はしていないが今後予定はしている。現在成年後見制度を利用している入居者さんはいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、解約、改定等があった際はその都度、御家族様へは、重要事項説明書や運営規定の説明を十分に行い理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来居時には近況報告しており、家族から意見、要望等を直接訴える機会を設けている。他に1F階入り口に「ご意見箱」を設置し活用している。	面会時や電話のやり取りの機会にて、利用者や家族が気軽に話しやすくなるような雰囲気作りに努め、意見・要望があった場合には、それらが運営に反映できるよう努めている。また、「ご意見箱」も設置するなど事業所の努力も感じられる。職員に対しては会議や申し送り等で周知させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、個人面談にてだされた職員の意見、提案を随時、代表者、管理者と話し合う機会を設け反映させている。	管理者は半年に1回、個人面談を行い、職員の意見を聞いている。施設長もケアミーティングに参加し、意見・提案があった場合は、それらが運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務希望をできるだけ受け入れ、働きやすい職場環境に努めている。また、研修会の参加、資格取得の取り組みが出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有料老人ホームほおずきとの連携をとり、お互いが外部、内部研修に頻回に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会等に参加して交流を図ったり、相互訪問にて、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に御本人の生活歴思いを十分に、受け入れ把握、本人の様子、訴えをご理解し傾聴に努めるそれらを、記録し他職員に申し送りし共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、御家族様にも担当者会議に参加して頂き、意見、思い、話を聞き相談、援助につとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時必ず本人、家族の意見をお聞きし情報収集しながら、全職員で本人に必要なサービスを検討し、ケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の特性を踏まえながら、日常生活の中で調理の手伝い、縫い物などをして頂いている。また、新しい事にも積極的に参加して頂けるよう声掛けしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来居時には、世間話をはじめ、コミュニケーションをとる事に努力している。また、運営推進会議や行事等の参加を普段から促し御協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との面会は喜んで受け入れている。また、職員はお盆やお正月等利用者様が希望する所へ外出できるよう支援している。	可能な限り個々の希望の場所に出掛けられるよう、必要時は家族にも協力をお願いして行っている。友人・知人の面会は積極的に受け入れするようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルのないよう声かけや、全員が楽しく過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、御本人、御家族からの相談があれば、随時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望意向は、出来る限り把握、実践できるよう努めている。場合によっては御家族から聞き取り協力して頂いている。	日常の会話の中から、利用者の希望・意向が把握できるよう努めている。また、困難な場合は、家族からの情報を得ると共に、本人本位にて検討し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任のケアマネジャー、サービス事業所、御家族等からの情報収集、活用、個人情報に配慮しながら、職員間で把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時々々の状態や体調を見極め、対応している。また、記録もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のケア会議にて、担当職員、他職員、又日頃より御家族の意見を伺いつつ介護計画に反映作成している。介護計画は、状況に応じて見直しをおこなっている。	利用者や家族の意向を取り入れ、職員間にて十分協議し、介護計画は定期的並びに利用者の心身の状況の変化に応じて随時見直し、現状に即した内容のものを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態、本人の言動等、変化や気づきがあった際は、その経緯を記録している。その情報を共有し、確実に申し送ってその後のケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や、御家族の状況に応じて、通院等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等の把握し参加を促したり、保育園との交流を行い地域資源の活用に努めている。又経営者は月に一度地域の民生委員会議に出席して情報等を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は、個々のかかりつけ医を把握しており、緊急時には受診、または連携を図り指示を仰いでいる。受診した際には家族に報告し共有が図られている。	入居時にグループホームの協力病院へ主治医を家族・本人希望にて変更する場合もあるが、基本的には以前から通っていたかかりつけ医の関係を大切に、通院を継続できるよう努めている。通院後は家族と情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	有料ほおずき看護師との連携を図り、職場内はもとより他医療機関とも連携強化に努め協働にて利用者様を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御利用者様が、入院された際は情報提供票を、作成したり病院関係者から情報伺いながら、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、ターミナルについては医師の意見を伺い早い段階にて話し合い家族からの同意書等も頂いている。急変時の対応や方針等について主治医と確認し同意を頂いている。	入居時に利用者が重度化した場合の説明をし、意思の確認を行っている。その後も利用者の心身の状況の変化に合わせて、かかりつけ医を含め、その都度話し合いの機会を持ち、方針を共有した支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの外部、内部研修に参加したり、急変時のマニュアルを作成し急変時の対応の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した災害避難訓練を、年2回行っている。施設内の連絡網も作成、掲示している。また、近隣の方には、夜間等の協力をお願いしている。	年2回、消防署に計画書を提出し、地域住民の協力のもと防災訓練を行っている。2階建てのため、日頃より落ち着いた行動ができるよう訓練し、地域との協力体制の構築に努めている。災害時に備えての非常食や暖房器具等も備蓄してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人としての人格を認め、尊重し利用者様の言動等を拒否したり否定したりせず普段から職員同士で確認、人格、プライバシーを傷つけぬよう配慮している。	利用者の人格を尊重し、個々を尊重した声かけに努めている。プライバシーの配慮や個人情報取扱等についても適切に行えるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で決めるのではなく、御本人の自己決定を促すよう努めている。困難な方には表情、動作から理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員、業務上の都合にとらわれず、御本人のペースに合わせられるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者様からの希望にて、美容院、床屋さんに訪問して頂いている。また、日常的な会話の中で好みの色や柄を聞き出し活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを尊重しながら、食べられない物には代替えにて対応している。食事の準備時、食材をちぎってもらったり、味見をして頂いている。	食事のメニューは季節のものを取り入れるように考案されている。野菜などの下準備などは出来る利用者に行っていただいている。職員と利用者は同じテーブルで同じ食事をし、楽しく食事ができるような雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週に1回栄養士の作ったメニューを提供している。むせ込みのある人にはトロミを提供したり、各々の状態に合わせ、お粥、キザミにて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食毎に口腔ケアを実施している。本人の力に応じて、声かけ、見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人のカヤ、排泄のパターンを理解できない所は介助している。失禁等あった時は、回りに気づかれないよう声がけし羞恥心に配慮している。	利用者の自尊心に配慮しながら、一人ひとりの身体機能に応じた排泄介助の支援ができるように、排泄チェック表を付けるなどして把握し、介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、水分を多めに摂る。又、散歩や体操等の運動により便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は、決まっているが個人の希望にて、時間をずらしたり、体調次第で清拭に変更したりしている。	入浴日は定められているが、利用者から要望があった場合は柔軟な対応を図り、入浴が楽しんでもらえるよう、一人ひとりに合わせた入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう本人の希望を取り入れている。(戸は閉める、電気はすぐに消さない等)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、各々の薬の内容を把握しており、服薬の確認を見守りや介助に行っている。薬の変更時には、確実に申し送り、カードックスで伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人や、家族様からの情報を基に気分転換、生き活きと生活できるよう、本人の役割、楽しみな事を見つけ活動できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の天候、体調を見極めながら個別に散歩、ドライブ、買い物等、外出できるよう支援している。	利用者一人ひとりの希望に合わせて、利用者のなじみの場所や地元のスーパーマーケット、公園等に定期的に出かけ、日常的な外出支援となるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は買い物等、支払いができるよう支援したり、ご利用者様の家族から了承を頂き、預かり帳を使い金銭管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在は、電話、手紙をやり取りする利用者様は、いないが手紙等が来た際は渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、常に清潔さを保ち季節の花等を飾っている。居室内ではカーテン等を利用して光の調整、温度確認、夜間帯においても、職員の足音の配慮等で支援している。	入居者と職員の共同作品が共用スペースに飾られてあり、利用者にとって心地よい場所に感じられた。また、生活感や季節感が出るような装飾もあり、居室や廊下、トイレなど各所に工夫がされてある。静かに過ごすことができるように、職員の声やテレビの音量にも配慮が感じられる。	渡り廊下の緩やかな傾斜を利用者にわかりやすくすることで、より安全性が確保されることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテーブルとソファを配置しており、利用者様同士談話したり、休まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御家族様の写真や、お守り等を飾っている。また、自宅から持ち込んだなじみのある椅子や布団等を使っていられる。	居室内では利用者が好まれる物を使用してもらい、利用者がその人らしく過ごせるように支援している。また、自宅からの持ち込んだものも多く、家族への働きかけも十分に感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備をする事で、歩行の妨げにならないよう安全に配慮している。また、トイレ、各居室には、表示する事で自立を促すよう配慮している。		